

令和4年度地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告

事業名	①滋賀ならではの価値ある資源と観光を掛け合わせてつくる「シガリズム」推進プロジェクト					
所管課	森と水政策課、観光物産課、埋蔵文化財センター、企画課、公共交通政策課					
交付金額	11,860,122円 (対象事業実績費: 11,860,122円)					
重要評価指標(KPI)	KPI① 観光消費額(億円) KPI② シガリズム体験交流コンテンツの売上額(新たに構築する販売プラットフォームにおける売上額(百万円)) KPI③ 本事業で新たに創出された観光コンテンツ数(本) KPI④ 県外観光客リピーター率(%)					
	KPI	事業開始前(現時点)	R4 増加分(実績値)	R5 増加分	R6 増加分	KPI 増加分の累計
	①	1,328.00	滋賀県及び7市	324.00	324.00	972.00
	②	0.00	町との広域連携	3.00	2.00	6.00
	③	0.00	事業のため、県	64.00	64.00	192.00
④	64.80	において測定	2.00	2.00	6.00	
計画	【地域資源の活用・異業種と観光の掛け合わせ】 ・地域の特長ある観光資源の磨き上げと発信 【データやデジタル技術の活用】 ・市内コミュニティバスへのバスロケーションシステム・AIカメラ導入					
実績	<p>【地域資源の活用・異業種と観光の掛け合わせ】</p> <p>1 森里川湖エコツーリズム推進事業 委託料 2,586,570円</p> <p>(1) 森里川湖エコツーリズムガイド養成 ・市内全域を対象としたエコツアーガイド(森里川湖エコツーリズムガイド)の養成講座を延べ8日間実施し、10名の受講者が全カリキュラムを修了し認定証を授与することができた。</p> <p>・既に認定している登山に特化したエコツアーガイド(鈴鹿10座エコツーリズムガイド)を対象に5回のフォローアップ研修を実施した。</p> <p>(2) プロモーションバージョンアップ ・実施しているエコツアーの周知や様々な取組の情報発信を目的に広報紙「ヒガエコ」を年4回発行した。</p> <p>・SNSなどを有効活用したターゲットに応じた情報発信として、ユーザーとの共同によるPV動画の制作を行った。</p> <p>(3) エコツアー認定及びモニタリング事業 ・本市としてのクオリティの高いエコツアーの仕組みづくりを推進するため、認定エコツアー制度を新たに設け運用を開始した。</p> <p>(4) 地域資源活用試行事業 ・今後のエコツアーの展開として、ツアーへの参加困難者(高齢者、障害者、交通困難者等自然のフィールドに赴くことが困難な人)に対し、参加してもらい市の魅力を伝えるエコツアーを実施していくため、高齢者を対象としたエコツアーを試行した。</p>					



2 観光戦略推進事業（短期滞在による外国人の市内周遊機会創出に係る調査）

委託料 3,000,000 円

- (1) 実態調査の実施
市内宿泊施設、医療機関、観光関連施設等へのアンケート調査及び観光素材調査
- (2) 受入態勢の構築
観光事業者向けインバウンドセミナー開催
- (3) 滞在型観光コンテンツやプラン企画造成
専門家等の招請による着地型観光商品造成に向けた検討
- (4) モニターツアーの実施
着地型観光の商品造成に向けたモニターツアー、アンケートの実施
- (5) プロモーション活動の実施
ホームページやSNSを活用した広報活動、旅行会社への提案



初年度は市内宿泊施設、医療機関、観光関連施設等へのアンケート調査及びヒアリング調査を行った。それぞれの受入実績や意向、可能性について調査を行うとともに、受入れに伴う意見交換会等を開催した。意見交換会では、外国語の表記や外国語の案内がない交通アクセス、外国人受入に望ましいとされている決済システムへの対応ができていない等課題を掘り起こすことができた。

また、インバウンドセミナー及びモニターツアーの実施では、有識者に同行いただくことにより、外国人送客を日々行っているプロの面から厳しい意見をいただくこととなったが、外国人を受け入れるに当たり、学びの多いものとなった。



3 五箇荘駅を起点とした五箇荘エリア周遊観光推進事業

委託料 1,556,500 円

【ソフト】

- (1) 案内ルートの検討
- (2) 新たな案内手法の検討
- (3) モニターツアーの計画

【ハード】

- (1) 既設観光案内看板の改修
- (2) 誘導看板の設置
- (3) 五箇荘駅舎内看板の設置



鉄道駅を観光の起点とするためには、来訪者への歓迎ムード、旅のワクワク感の演出が不可欠であり、令和4年度は主に既設観光案内看板の改修や誘導看板、駅舎内看板の新設などハード整備を行いつつ、次年度に実施するモニターツアーなどを検討した。

五箇荘近江商人屋敷などを訪れる観光客はJR能登川駅から路線バスを利用される方が多く、点と点の観光案内に留まっている。今回、最寄り駅である近江鉄道五箇荘駅を起点とする観光案内を推進することで、地域鉄道の利用促進だけでなく、目的地までの移動手段を徒歩にすることで、立ち寄り可能な店舗や施設との新たな連携を生み出すことができた。

4 飛び出し坊や発祥の地プロジェクト

委託料 2,000,000円

- (1) 市内の特殊デザインを対象とした実態調査
- (2) 広報宣伝

東京都の滋賀県アンテナショップこしがなどでは、飛び出し坊やの人気の高い。また、滋賀県のキャラクターとしての認知も高く、宣伝効果も生まれている。

市民の愛着心の醸成だけでなく、飛び出し坊やの聖地として新たな来訪者の獲得のため、令和4年度、東近江市が発祥であることを広く周知するための広報活動等を行った。



- (1) 実態調査の実施
- (2) マップの作成

東近江市内のオリジナル看板の設置箇所を調査し、Google マップのマイマップを作成した。

- (3) 新規設置の推進

飛び出し坊や発祥の地を紹介するランディングページを作成し、東近江市観光協会ホームページにバナーを設置することにより周知を行った。飛び出し坊やの歴史や地域の風土を取りまとめ、発信することにより、市民の飛び出し坊やへの愛着を高め新規オリジナル飛び出し坊や設置への機運を高めることができた。

- (4) 広報活動等の実施

飛び出し坊やと歩んだ50年を紹介するランディングページを作成した。

メディア掲載情報を収集し、SNSを活用し発信した。

観光キャンペーンにおいて飛び出し坊やフォトスペースを設置し、SNSでの情報発信を行った。

各種イベントの開催やオリジナルの飛び出し坊やを普及促進することで、活性化や魅力度の向上を図ることができた。



5 古墳の魅力再発見事業

委託料 2,809,000円

雪野山山頂に位置する史跡雪野山古墳への探訪に対応し、魅力の向上を図るため、次の事業を行った。

- ・眺望確保のための間伐、散策路の整地や修理
- ・古墳への案内看板1基・古墳の説明看板1基の設置
- ・伐採した木材を利用した休憩用ベンチ4基の設置



6 木地師のふるさと魅力発信事業

委託料 3,498,000円

木地師や塗師の歴史的・文化的価値と本市を起点に全国に広がるものづくりのネットワークについて考えるとともに、「木地師のふるさと東近江市」を全国に発信し、全国の木地師文化に関する地域や関係団体、関係者との連携を一層強化するため、東京都で公開シンポジウムを開催した。

場所 東京国立博物館平成館大講堂
 内容 基調講演、パネルディスカッション
 参加者 160名



【データやデジタル技術の活用】

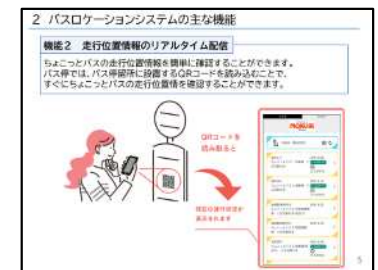
バスロケーションシステム整備事業

委託料 8,270,174円

市内の観光資源を巡る際、異なる移動手段をシームレスに利用する環境の整備を目指し、幹線交通機関を補完するコミュニティバスにバスロケーションシステム及び乗降カウントシステムを整備し、令和5年1月から運用を開始した。

これにより、Googleでの移動検索時にコミュニティバスを含む地域公共交通機関を一括して検索することが可能になるとともに、コミュニティバスの運行情報のリアルタイム配信を開始し、利用者のバス待ちのイライラ解消等の解消を図った。

バスロケーションシステムへの対応 14車両
 乗降カウントシステムの整備 12車両



今後の方針

令和4年度は、各事業で看板等の設置やモニターツアー、情報発信等を行い、それぞれの観光資源をいかすための土台づくりや環境整備を行った。

また、バスロケーションシステムを導入することで、観光者が利用しやすい環境も構築した。この令和4年度の実績を今後の事業にいかし、多様な観光資源を更に磨き上げ、東近江市の発信と観光誘客を図っていく。

※KPIの目標値は、交付申請時の数値です。

令和4年度地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告

事業名	②里山をいかした子育て環境づくり、人づくり事業					
所管課	森と水政策課里山活用推進室					
交付金額	1,398,000円（対象事業実績費：1,398,000円）					
重要評価 指標(KPI)	KPI① 市内在園5歳児園児数に対する里山保育実施割合(%) KPI② 市内全園(27園)に対する里山保育の1園当たり年間平均実施回数(回) KPI③ 市民団体「東近江さとやま Nannies」の参加者数(人) KPI④ 保育士等を目指す者のうち、里山保育等自然をいかした保育に関心を示す者の人数(人)					
	KPI	事業開始前	R3 目標値 (実績値)	R4 目標値 (実績値)	R5 目標値	最終目標値 (R6)
	①	27.00	30.00 (30.84)	40.00 (48.47)	50.00	60.00
	②	1.07	1.11 (1.26)	2.37 (2.40)	2.96	3.37
	③	18.00	20.00 (23.00)	25.00 (25.00)	30.00	35.00
④	0.00	2.00(14.00)	12.00 (61.00)	22.00	32.00	
計 画	<p>【里山保育実施業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体「東近江さとやま Nannies」において、12園を対象に計60回以上の里山保育を市職員とともに実施 ・2名の指導者を育成 <p>【自然環境調査業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山保育の活動現場7箇所について植物を対象とした自然環境調査を実施 ・モデルケースとして、調査の方法や市民参画の在り方及び活用可能資源の抽出方法について検討 <p>【ブランディング業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山保育と自然環境調査を結びつけ、里山保育を軸として市内外の幼児や子育て世代に対する効果的なアピールとなるブランディングの手法を検討 					
実 績	<p>【里山保育実施業務】</p> <p>1 里山保育実施業務 委託料 2,409,000円（率1/2 1,204,500円）</p> <p>(1) 本事業推進の上で核となる里山保育の課題 里山保育は、認定こども園等の5歳児を、園の周辺の里山や水路などの自然に複数回連れて行き、体験を通じて身近な自然の楽しさを知ってもらう事業であり、平成27年度に1園から始め、徐々に実施園を増やしてきたところである。本事業開始前の令和2年度は、里山活用推進室の職員2名で7園を対象に実施してきたが、2名では更なる拡大の上で限界が見えており、地域の自然をいかして幼児に自然体験活動を提供できる人材の確保と育成が大きな課題であった。</p> <p>(2) 交付金を活用した市民団体との協働 こうした中、本交付金によって、幼児への自然体験活動に関心のあるメンバーで結成された市民団体「東近江さとやま Nannies」に、里山保育の実施と指導者の育成を業務委託することで、里山保育の継続と拡大に向け、着実に指導者を育成することができている。</p>					



↑里山保育を実施している東近江さとやま Nannies

これにより、令和4年度は、前年度から3園増やして12園を対象とし、本市の在園5歳児949人のうち、460人(48.47%)に対して里山保育を実施することで、KPI①の目標値を上回った。また、KPI②についても65回の里山保育を実施し、目標値を上回る2.40回/園を達成した。

里山保育の実施を担う東近江さとやまNanniesの参加者数(会員数)については、こうした活動に子育て中の女性が高い関心を寄せたことで、KPI③目標どおり2名の参加があり、25名で活動を行うことができた。65回実施した里山保育に対して、同団体から延べ99人の参加があったが、里山保育は実施当日だけでなく事前・事後の作業も重要であり、事前の下見に延べ73人、プログラム作成に延べ77人、事後の通信作成に延べ58人が参加するなど、市職員だけで実施していたことに対してかなりの広がりが見られた。



↑ 下見を行う東近江さとやまNannies

重要なことは、業務の委託に際して、市が市民団体に全ての業務をまかせるのではなく、里山保育の理念や指導状況を現場で知ってもらうために、基本的に市が主体となって指導を行いながら、本市独自の里山保育のスキルを市民団体に伝える仕組みで実施したことである。

市民団体のメンバーは、子どもとの関わりに高い関心はあっても自然をいかした指導経験はほぼ無いと言ってもよく、そうしたメンバーが、里山保育に関わることで身近な自然とその活用方法を学ぶことは、本市の大きな資源である自然環境の保全と活用を実践する市民を増やすことに直結すると言える。これらによって、令和4年度は、市民団体の中から2名の指導者を育成することができた。

なお、令和4年度に里山保育を実施した12園のうち、公立園9園の保護者に対して、里山保育全回終了後にアンケートをとったところ、配布数374人に対して276枚の回答があった(回答率73.7%)。主な項目の回答のみ紹介すると、「里山保育を体験したことで子どもに何か変化があったか?」という問いに対して196人(71%)が「変化があった」と答え、「里山保育は今後も継続すべきか?」とい問いに対して265人(96%)が「継続すべき」と回答するなど、保護者からも非常に好評価であった。自由記述に記載された例をいくつか紹介する。

「外を歩くとき、今まで気に留めていなかった植物や生き物を見つけて立ち止まるが増えました。

また、親も、子どもと一緒に季節の移っていく様子に目を向けるようになりました。」

「2つ上の姉も里山保育が好き、自然や虫が大好きでした。小学生になった今でも外出時はルーペとメモを持って出掛け、その時見つけた昆虫や植物を図鑑で調べています。本人もその姿を真似して、図鑑を見たり、外に出て色々なものを観察したりしています。」

「自然と触れ合う機会が昔に比べて減った今、里山保育のような場で色々体験し、自然と共生していくことを学んでほしいと考えています。また、自分が住んでいる東近江市を大人になっても愛してくれる心を育ててほしいです。」

「里山保育での経験が子どもたちの心の根っこになり、たくさん力をつけて大きくなってもらえるよう、今後も続けていただきたいです。」



↑ 里山保育の探検を楽しむ子どもたち

(3) 政策間連携の成果

KPI④は、「保育士等を目指す者のうち、里山保育等自然をいかした保育に関心を示す者の人数」であるが、これは本事業が、①身近な自然の価値を伝える環境政策、②幼児に自然体験活動の機会を増やす幼児政策、③自然をいかした魅力ある子育て環境を作ることで流出人口の抑制や移住者の増加を図る定住移住政策を結び付けるものであり、いずれも各部署単独でできることが限られていたことを、里山保育というツールを使って広げていくことができるという視点で捉えたものである。

一つの手法として、市内で保育士等を育成する大学であるびわこ学院大学で授業の一環として、同大学附属の幼稚園での里山保育に学生が参加することとなった。附属幼稚園の里山保育

は2回実施され、1回目18人、2回目6人の計24人が参加し、里山保育を実際に体験してもらった。また、このほかにも同大学の学生が自主的に里山保育へ参加され、2名、延べ5回の参加があった。

一方、幼児政策との連携により、主に保育士を目指す学生向けに開催する「保育の仕事 就職フェア」を令和4年度は2回開催し、その場において、本市独自の里山保育について紹介するブースを設け、実際に里山保育を体験した保育士がブースの解説を行った。その後、参加者にアンケートを行ったところ、「里山保育に興味をもちましたか」という問いに対して参加者34名のうち「興味をもった」が32名という結果であった。どの市町も保育士の獲得が重要となってきた中で、里山保育を通じて本市の保育環境をアピールできたことは、幼児政策サイドにとっても意義があったと言える。

KPI④については、びわこ学院大学の学生の参加人数29名と、上記「興味をもった」と回答した32名を加えた61名を計上したもので、目標値を大きく上回ることができた。

【自然環境調査業務】

2 自然環境調査業務

委託料 315,000円（率1/2 157,500円）

(1) 調査のねらい

身近な自然にも触れるだけの価値があるということを知ってもらうため、里山保育の実施場所において、一般的な自然環境調査とは異なる次の2点に留意した調査を行った。

ひとつは、子どもたちが楽しめる植物がどれほどあるかという視点で調査を行うということ、もうひとつは、調査を専門家等に一任するのではなく、調査者が、調査場所の自然環境をいかそうとする市民を巻き込みながら調査を行うというものである。令和3年度の調査方法や市民参画の在り方を踏まえて、令和4年度は、里山保育実施中の園のうち7箇所を対象として調査を実施し、その調査結果から活用可能資源を抽出した。

(2) 調査結果

7箇所の調査結果は次のとおりである。

①わかば幼児園（御河辺神社及び馬場周辺）種子植物216種、シダ植物22種、合計238種

②あかね幼児園（船岡山の周遊歩道沿い）種子植物250種、シダ植物15種、合計265種

③永源寺もみじ幼児園（園東側の道沿いから本堂溜池の堤防）

種子植物247種、シダ植物12種、合計259種

④五個荘あさひ幼児園（山本山近くの広場、参道から古墳までの登山道沿い）

種子植物247種、シダ植物27種、合計274種

⑤ちどり幼児園（園隣の道から大同川沿い）種子植物159種、シダ植物1種、合計160種

⑥玉緒幼稚園（大森神社から大森城址の道路及び登山道沿い）

種子植物229種、シダ植物32種、合計261種

⑦ふたばこども園（園南東側水路沿い畦道及び園南西側耕作地周辺畦道）

種子植物98種、シダ植物2種、合計100種

この調査結果を踏まえて、それぞれの場所で確認されたもののうち、子どもたちが楽しめる活用可能資源として15種類ずつ抽出した。

(3) 調査の意義

調査に際しては、地元の植物に詳しい者が、本調査のねらいに合致した調査を行うため設立した「東近江里山自然リサーチ」が行っている。そのメンバーには、里山保育実施受託者である東近江さとやま Nannies も加わり、専門家プラス市民で調査を行う体制が作られた。一般的な調査が専門家だけで完結してしまうことに比べ、本調査は植物に詳しくない市民が子ども目線で調査に加わることにより、自らの知識の蓄えに加えて、子どもたちが楽しめる植物がどれほどあるかという視点で調査を行うことにも寄与できた。



↑ 調査を行う東近江里山自然リサーチ

このようにして抽出された「子どもたちが楽しめる活用可能資源」をまとめたものを、令和5年度に調査場所である園や里山保全活動を行う団体へ提供し、日々の保育や保全活動へ活用してもらうことを目指している。

【里山保育ブランディング検討】

3 里山保育ブランディング検討

委託料 72,000 円 (率 1/2 36,000 円)

(1) 業務のねらい

東近江市の里山保育は、園周辺の自然環境に園児を連れて行き自然体験活動を行うという、ほかの自治体では例がないものと思われる。また、里山保育を実施する上で、活動場所にどのような自然環境があり、どうかすのかという視点で自然環境調査も行っている。この調査は植生調査だけではなく、そこに生育する植物が子どもたちの体験活動にどう活用できるかという視点で調査しており、これまでに例がないものである。今回の業務では、東近江市を特徴づける里山保育に関する事業の実施を受け、里山保育を軸とした市内外の幼児と子育て世代に対して東近江市をアピールするブランディング手法について検討を行った。

(2) ブランディングの方向性

東近江市に今後も住み続けてもらい、移住定住をしてもらうためにも、子育て世代をターゲットにした効果的なマーケティングを検討した。SNSの発信も必要であるが、常に更新が必要となり、情報があふれている中では埋没する可能性がある。また、チラシやパンフレットでは、情報が一過性のものになりやすい。

冊子の情報も一過性のものではあるが、チラシやパンフレットよりも多くの情報を届けることができる。さらに、既存の冊子に掲載してもらうことで、一定数に伝わりやすくなる。あわせて、冊子情報をホームページ等に掲載することでより広がる可能性もある。そこで、提案を受けたのが既存冊子である「そこら」への掲載である。「そこら」は、編集委員会があり、行政、市民、NPO団体等多くの人が参加しており、様々な視点からの意見を反映し、編集ができる。また、これまでに9号発行している実績もあり、一定のファンがいることも強みである。様々な可能性が広がる「そこら」へ里山保育の特集記事を掲載することで、様々な可能性が広がることで、来年度のブランディング業務へつなげていきたい。

今後の方針

令和4年度は、全てのKPIにおいて目標を達成することができたため、引き続き計画に基づき事業を拡大して進める方針である。

令和5年度は、本事業3年目で最終年度を迎えるに当たり、それぞれの取組について更に拡大を図る。里山保育は、実施園を3園増やし15園で実施予定であり、引き続き指導者の育成を行う。自然環境調査は、3箇所を調査対象地として行う予定である。また新たに、里山保育を軸にした本市のブランディングについて、既存冊子へ特集記事の掲載を行う予定である。

※KPIの目標値は、交付申請時の数値です。